



令和3年度第1回刈谷市国際化・多文化共生推進委員会 議事録

■日 時：令和3年10月29日（金） 10：00～11：40

■場 所：刈谷市役所 503会議室

■出席者

団体名	役 職	氏 名
愛知淑徳大学	名誉教授	榎 田 勝 利
刈谷市教育委員会	学校教育課 指導主事	中 村 雅 至
愛知県国際交流協会	交流共生課 課長	林 一 也
刈谷市国際交流協会	常務理事兼事務局長	丸 山 靖 司
一ツ木自治会		及 川 啓 太
株式会社ベルテック	取締役専務	小 池 ソニア
認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター	事務局長	熊 澤 友紀子
S B K	代表	川 口 ビバリ
市民委員		岡 部 真理子
刈谷市市民活動部	部長	岡 部 直 樹

欠席者

団体名	役 職	氏 名
国立大学法人愛知教育大学	国際企画課 副課長	稲 垣 匡 人
株式会社豊田自動織機	グローバル人事室 海外勤務グループ長	小 林 美 保
市民委員		王 平

事務局

団体名	役 職	氏 名
市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	石 川 領 子
市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	石 川 孝 志
市民協働課	協働推進係長	小 原 崇 照
市民協働課	協働推進係 主事	加 藤 祐 騎
市民協働課	協働推進係 主事	禰 亘 田 千 穂

■配付資料 議事次第、委員名簿

資料 刈谷市国際化・多文化共生推進計画の概要について

別紙 1

別紙 2

■議事録

・委員長あいさつ

当委員会が初開催された10年前とは、刈谷市、愛知県、日本の状況は大きく変わった。刈谷市に目を向けると外国人住民の中でも定住者・永住者数の比率が上昇しており、日本人住民と同様、子どもや高齢者などの問題が多岐にわたっている。その中で当委員会は地域社会が抱える様々な問題やこれからの将来について、どのように多文化共生のまちづくりを進めるのかを考えることになる。

今回議題に上がっている各プロジェクトについては、あくまで多文化共生のまちづくりを推進する上での1つの方法であり、視野を広くして取り組む必要がある。ひとつのプロジェクトをモデルとして推進することにより、相互作用していき、地域に浸透していくのだと思う。プロジェクトの中には、少しずつ成果が出てきているものや大きな広がりができているものもあるが、皆様の意見を聞くことで刈谷市の多文化共生のための力をお借りしたい。

1 議題

(1) 刈谷市国際化・多文化共生推進計画の概要について

事務局が、刈谷市の外国人状況、刈谷市国際化・多文化共生推進計画、第3期重点協働プロジェクトについて、状況報告並びに課題を配付資料に基づき説明を行った。

委員長 補足として。愛知県の外国人人口は、令和3年6月末時点で約269,000人であり、県全体の人口の3.58%に当たる。刈谷市はそれより少し割合が少ない3.25%である。

(2) 第3期重点協働プロジェクトの進捗状況について

ア 共生の地域づくり発展プロジェクト

事務局が、各プロジェクトの活動実績、目標の達成状況及び実績、課題及び今後の取り組みを配付資料に基づき説明した。

委員 南部ワールドデンのコアメンバー3人は誰か。

事務局 SSS代表、ボランティア活動センター長、ワールドデン立ち上げ時に関わっていた人物の3人である。

- 委員長** JICAの研修について具体的な内容を教えてほしい。
- 委員** 愛知、岐阜、三重、静岡の小中高の10数人の教師の方々に、午前中はワールドデンの作業を見学、体験してもらい、参加者との取材を兼ねた交流を1時間ほど行った。その後に国際プラザに移動して講義を行った。皆、熱心に聞いてくださり教職員の立場からワールドデンの魅力の発信方法について、アドバイスをもらった。午後は、SBK代表に、SBKについて教職員の方々に紹介していただいた。
- 委員長** 評価はどうだったか。
- 委員** 好評だったと感じている。ここ最近はワールドデンの活動について紹介する機会がなかなかなかったので、非常に有意義だった。
- 委員** フィリピン人が日本で暮らしていて困ったことやフィリピンの文化について知りたいと言われたが、時間の関係もあり全て話すことができなかった。次の機会があれば、より詳しく紹介したい。
- 委員長** スキルの習得とは、コミュニケーションのスキルか。
- 事務局** コミュニケーションのスキルと認識している。ワールドデンは外国人の方が多く参加しているが、英語が話せない日本人も多い。メンバーが積極的に外国人と交流できるように「やさしい日本語」によるコミュニケーションスキルを習得することで、より効果が出てくると思う。
- 委員長** 合同作業の際に、外国人参加者と地域住民のつなぎ役や作業の計画を立てる役割を担っていてどう感じているか。
- 委員** 外国人の方が継続的に同じ顔触れで参加するようになっており、昨年度からその傾向がある。コミュニケーションが取れる機会は確保できていたが、コロナ禍において長時間、近距離での会話が遠慮されるようになり、コミュニケーションが難しくなっているのが現状である。作業前と作業後のあいさつを行っているが、初めての参加者にはその中での自己紹介や質問に答えてもらう形で、一定のコミュニケーションは意識して取れていると感じている。コロナ禍で積極的な交流が取れないのは残念だが、個々でのコミュニケーションの方法を考えたい。また、参加者同士名前を覚えられるように、ガムテープを名札代わりにすることを前回から始めた。
- 委員長** ワールドデンに関して、刈谷市への問い合わせはあるか。
- 事務局** 大学生の卒業論文に関して2件あった。
- 委員長** 自治体からはどうか。
- 事務局** 特にない。
- 委員** 日本語教室のコーディネーターをしているが、やさしい日本語の講座を実施しても、日頃使っていないと、日本人の方もやさしい日本語がどういうもの

かわからないと思う。我々が気を付けているものとして、日本語の習得はひとつの手段であり、一番大事なのは「お互いを知ること」だと考えている。それが意識できれば自己紹介の場面で「最近ハマっているものは何ですか？」という質問などコミュニケーションの場面でいい切り口になると思う。

委員 顔見知りの人が増えているのはいい傾向である。また、顔は覚えても名前が出てこないことがあるので、名札を作って名前呼び合えるように工夫しているのはいいアイデアだと思う。コーディネーターの人達にそのような工夫点をブラッシュアップしてもらい、新規の参加者が他の参加者に親しみを感じやすくなればいいと思う。毎回同じ人に来てもらえるのも、ワールドデンに魅力を感じてもらえているからであり、この調子で人の輪がだんだん広がるようになれば、南部に展開する上でとても参考になるし、課題ができればその都度改善していけばいいと思う。スキルの習得と聞くと、難しく感じるが、現場の人達が課題だと感じることをクリアしていけばよいのではないか。新規の参加者も増えているのか。

委員 前回は新規でアメリカ人の参加者が来てくれ、次回は子どもも連れていきたいとおっしゃっていた。また、来年度以降もアイシン学園の外国人実習生の参加も期待できる。

委員 自己紹介をいろいろなところで行っているが、うまく言えないときもある。短い時間でちょっとしたことを話せばいいのだが、それがコミュニケーションの始まりとなるので、聞いてもらえればいいのではないかと思った。何を話そうかとあれこれ考えているうちにプレッシャーのように感じてしまうのはよくないと感じた。

委員長 コミュニケーションはレクリエーションやグループワーク、簡単なゲームを考えられる人がいると良い。学校の先生がいれば大きく変わってくる。そのような人達に参加してもらえるとよいのではないか。

イ 外国人市民の参画と共助プロジェクト

事務局が、活動実績、「ガイドブック3か国分の作成」「外国人市民のコミュニティ形成支援」事業の目標の達成成果、課題、今後の取り組みについて配付資料に基づき説明を行った。

委員長 フィリピン、ベトナムのコミュニティについて、定例的に会議等は開かれているのか。

事務局 フィリピンはS B K代表が中心となり、月に1回ほど会議を開いている。ベトナムは、コロナ禍で集まるのが難しかったが、SNS等を通じてコミュニティ内で情報共有が行われている。

委員 月に1～2回ほど集まり、ワクチン接種がまだであるなど、生活での困りごとについて情報共有しているほか、子ども達も連れてお楽しみ会なども開催している。

委員長 他に市内在住のフィリピン人のネットワークがあるのか。

委員 FacebookやInstagramなどのSNSで繋がっている。また、食材店などのフィリピン人向けの店のオーナーにも情報共有することでコミュニケーションを図っている。

委員長 フィリピン人向けの店があるのか。

委員 ある。誰かがやらないと、情報は広がっていかないため、フィリピン人が利用するお店のオーナーにも協力してもらっている。ワクチンの情報など、わからないことがたくさんあった。先日のワクチンについての相談会については、とても感謝している。

委員長 市内にフィリピン人がよく集まる教会はあるのか。

委員 市役所の近くにある。

委員長 タガログ語での案内はあるのか。

委員 案内はないが、日曜日のミサはタガログ語で行われるほか、フィリピン人の会合の場としても機能している。

委員長 フィリピンをはじめとした、外国人がよく集まる場所に案内があれば便利だと思う。ブラジル人コミュニティの設立が難しいのはブラジルが個人主義だからか。

事務局 そのとおりである。インターネットで情報収集ができていますので、困りごとが少ないと聞いている。一方で、何十年も日本に住んでいるが日本人との関わりが少なく、日本語が話せないブラジル人もいます。

委員長 学校教育の場面では、ブラジル人の父兄や生徒と関わることも多いと思うが、そこでトラブルが発生することはあるか。

委員 トラブルは発生していないが、運動会などの学校行事では通訳が必要となる。そのような場合、タガログ語、ポルトガル語、中国語の語学相談員を学校教育課で要請している。また、語学相談員のもとに保護者から、学校生活を含めた子育て全般についての相談事が寄せられている。

委員長 語学相談員は各学校に配置されているのか。

委員 タガログ語2人、ポルトガル語1人、中国語1人の相談員が市内の学校を巡回している。

委員長 A I Aには相談事はあるのか。

委員 ワクチンなどコロナについての相談事が非常に多い。ただ、ワクチンの接種については実施主体が行政なので、お住いの自治体へ問い合わせしてほしい。

いという回答しかできない。刈谷市で実施状況を見てみるとK I F AのSNSを通じての情報発信や、タガログ語のリーフレットの配布などがある。情報誌の必要について調査されているようだが、紙媒体だとあまり読んでもらえないのでSNSを通じての方法がよいかもしれない。

委員 K I F Aには相談は入っていないが、市の健康推進課からコロナに関して相談会の開催の依頼があり、K I F Aと市の共催という形で実施した。また、コミュニティの継続的な活動に繋げるため、K I F Aのボランティアが国際交流フェスタという催しを開いており、参加を呼び掛けている。このような事業への継続的な参加が活動の定着につながると考えている。

委員長 刈谷市のホームページは、多言語対応しているか。

委員 自動翻訳機能があり、多言語対応している。

事務局 刈谷市のホームページは、視覚障がい者のための音声読み上げにも対応している。そのため、日本語も平易なわかりやすい表記とするように配慮している。添付ファイルなど、未対応の部分もある。

言語は、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語に対応している。

委員長 ガイドブックを読む人が少ないのであれば、SNSを活用した新しい形での情報提供が望ましいと思う。

事務局 刈谷市では、環境への配慮等からペーパーレス化を進めており、データのデジタル化を推進している。本年度から計画書や報告書などは実際の印刷物を作成せず、デジタル媒体のみとする動きが始まっている。既にインターネット上で見られるような対応もしており、今後ますます促進されると思う。SNSの活用も進めていきたい。

ウ ESD推進プロジェクト

事務局が、活動実績、目標の達成成果、課題、今後の取り組みについて配付資料に基づき説明を行った。

委員 小学校で2回ほど講師を経験させてもらったが、2年前から小中学校での実施が少ないことは言われている。WAFCAでも団体独自のプログラムを製作し、知り合いの教師と連携して実施しているが、横に広がっていかない。どのようにすれば授業に取り入れやすいのか教えてほしい。

委員 総合的な学習の時間、小学校の社会科、中学校の公民の授業に関わってくると思う。4月ごろに照会をいただくとよい。教育委員会を通して依頼してもらおうと、総合的な学習の時間の担当者が集まる会議で話すことができる。一気に市内の全学校で行うのは難しいが、徐々に広がる感じになる。ただ、

去年と今年は会議が書面開催となっているので、書面にて紹介させてもらうことになるかもしれない。

委員長 様々な国や背景を持った子ども達とオンラインで交流できており、かなり効果的だと思う。色々なメニューをやるのはいいが、そもそもE S Dが何なのかということを見ると、国際理解教育、開発教育、S D G sの17の目標や世界の食べ物や暮らしぶりを世界と比べて自分のことも含めて理解したうえでカリキュラム化していくべき。刈谷市には中国、ベトナム、フィリピン、ブラジルなどの外国人住民が多く、それらの国を中心としてカリキュラムを製作し、外国人住民の方々にご参加いただき講師陣を結成する。そのうえで、日本語で映像や写真などを用いていけばより深まると思う。

委員 小中学校では、公平にするために学年の全クラスに対して実施しなければならないなどの制約がある。カリキュラムがフレキシブルになるといい。子ども達が自分でやってみようとアクションを起こせるように寄せていく必要がある。

委員長 自分からアクションを起こすことができるプログラムが望ましい。多文化共生の目標というのは、誰一人として取り残さないことであり、E S Dもその目標に沿って進めていくべき。A I Aが愛知万博で全参加国分のガイドブックを製作したが、現在も使われているのか。

委員 著作権などの問題があり、アップデートが難しい状況となっている。既存のものは、ホームページからダウンロードできる。

委員長 ガイドブックやプログラムはアップデートすることで質が高まり、人材も集まってくる。

委員 4月には学校の授業のスケジュールは決まっているのか。

委員 決まっているが、異動などで4月になってから変更が起きるときもある。3月までは教員側も見通しが立っていないことが多いので4月にカリキュラムを教えてもらいたい。

委員 プログラムを作成する段階から教員に入ってもらい、一緒に作り上げていくという流れが望ましい。最終的に使われなければもったいないので、実際に使う現場の状況とマッチングしていく必要がある。

委員 そのプログラムが実際にどの場面で使えるのか教えて頂けるとありがたい。過去の事例でもいいので、どの学年の、どの単元で扱ってもらったかということまで伝えていただければ分かりやすい。特に若い先生にとっては助かると思う。

委員 刈谷市内の小中学校において、授業ごとのテーマはプログラムを提案する前に教えていただけるのか。

委員 年度や学校ごとに授業のテーマは異なる。他市町村でもよいので、どの教科でどのようなプログラムを行ったのか過去の事例などを伝えていただきたい。

委員長 刈谷市は国際的企業が多く、人材・環境ともに豊富である。学校教育の場において、ESDが推進できれば地域的な特性も出せるのではないか。現場の教員の方々の理解を研修などで得られればと思う。名古屋市のように国際理解教育を推進する学校を指定校とする制度を導入すればかなり変わるのではないか。

(3) 日本語支援について

事務局が、刈谷市日本語支援団体連絡協議会の開催目的、参加団体、開催日時、各団体活動報告を資料に沿って説明した。

委員 初期日本語教室の受講対象者は16歳以上の日本語が話せない外国人である。先日、日本語が全く分からない外国人の学齢超過者が日本語教室について相談するために市役所を訪ねた。親から高校進学を目指していると言われ、進学目的の人には初期日本語は適さないため、市民協働課と学校教育課に連絡し、3者で具体的な相談を受けることになったが、相談当日になってキャンセルとなってしまった。そのような方が増えてしまうと、適切な支援ができなくなるのではと心配している。

委員長 A I Aに進学のための日本語教室について相談できる場所はあるか。

委員 通訳を介して相談を受け付けるが、今聞いたように日本語が全く話せない状態で高校進学したいと言われたら、うちの相談員は受かりませんよと回答してしまう。現在の公立高校には外国人枠があるものの、卒業できずにドロップアウトしてしまうケースも多い。県が関与している日本語教室を2～3例ほど確認してもらい、受講を判断していただいている。また、高校側への定員の確認も行っている。オンラインで対応している教室もあるが、はっきりした方向性はまだ定まっていない。

委員長 方向性が機能すれば、ボランティアの派遣や講師の紹介がスムーズにいくと思う。日本語支援団体連絡協議会の事務局は市民協働課か。

事務局 市民協働課である。

委員長 学校教育課では、児童生徒の日本語教育について関与しているか。

委員 外国人の児童生徒に関する担当者がいる。

2 その他

委員長 議題を通じて何かあれば意見いただきたい。

委員 3つのプロジェクトが単独で動いているように見えるので、それぞれのプロジェクトが一緒になって、どんな成果を目指しているのかということが分かるようにしてもらえるといいと思う。加えて、外国人住民を弱い立場としてサポートしている印象がまだ強いので、それらの人々が刈谷市民として、どういった形で市に貢献できているのかを広報していけば活気が出てくると思う。

委員 推進計画内の「国籍が異なる人々と日本人が対等である」という文言は非常に重要だと思う。日本語支援をしていると、日本人は教え、外国人は教えられる立場であり決して対等ではないという意見の人もある。ボランティアの人がどうしても支援してあげているという姿勢になりがちである。初期日本語教室において日本人も、相手に歩み寄ることでやさしい日本語の使い方を学ぶことができるため、お互い対等である意識が大切である。日本語ができなければ対等ではない、というわけではない。せつかく推進計画に「対等」と書いてあるのもっと浸透してほしい。

事務局 推進計画は、本来今年までの計画だったが2年延長している。そのため、来年度にニーズ調査のためのアンケートを行い、再来年度策定という予定である。適正なニーズ把握に努め、また、この委員会の場でもご意見をいただきながら、次期計画に反映させていきたい。

委員長 最後に委員の方々にコメントをいただきたい。

委員 色々な意見を聞くことができたので、今後のワールドデンに活かしたい。SDGsについて、特に11番の「住み続けられるまちづくりを」の項目がワールドデンの活動に合っていると思った。特に子ども世代に参加を促し、そこに来て楽しめる場ということを知らせたいと思う。

委員長 是非ワールドデンをSDGsの切り口にしてもらいたい。

委員 日本語支援団体連絡協議会の内容で、市民協働課は「はなそう にほんご」のサポートと書いてあるが、もう少し主体的に取り組んでももらいたい。また、後継となる教室コーディネーターを育成することは重要だと思う。共生の地域づくりの項目で、「やさしい日本語」について挙げたが、まず、地区の方で「やさしい日本語」を覚えてほしく、自治連合会で勉強会をやってもらえるとよいと思う。

委員 外国人が市内に分散して住んでいるということなので、情報を届けるのが難しいと思うが、計画がソフトな切り口で読みやすく作成されており、これが現実になるようにぜひ協力していきたい。

委員 担当者会議の際、タガログ語で授業を受ける体験をしたことがあるが、内容が全く分からず、外国人の子ども達もこのような感じで困っていると感じた。

日本語適応教室にて、日常会話のみならず、勉強する際に使用する学習言語を習得しなければ外国人の子ども達は将来幸せになれないというのを、かりがね小学校の日本語教育を専門とする教師の方から聞き、日本語指導についての内容も考えていかなければならないと考えている。

委員 昨年度と比べて、ブラジル人コミュニティやワールドデンの南部地域展開など、様々な計画が始動していたことを知ることができてよかった。学校教育の場において、海外の障害福祉や社会問題について学ぶ機会を提供することで刈谷市の国際化に力添えしたい。

委員 初期日本語教室について、週1回では足りないのでは週3回やってほしい。それくらいやればコミュニケーションがとれるようになってくると思う。

委員 推進計画を見て、すばらしいと思った反面、コミュニケーションという面が少し弱いなと思った。本来、本国で受けられるはずの教育の権利が、日本語が分からないだけで失われることはあってはならないと思う。プログラムを作成する際には日本人側の都合の良いようになりがちだが、外国人住民も共同で作成していくべきだ。

委員 3つのプロジェクトは、1期から3期まで変わらずに軸になっている。ワールドデンは10年経ってやっと南部にも動いた。新しい計画策定が来年度から始まるので、そのときにはご協力をお願いしたい。個人的に気になるのは、在留資格に「特定技能」が新しく追加されたが、この辺りに住んでいる人達は技能実習が終わると特定技能に切り替わり、家族を呼び寄せる人もいと聞いているので、日本語教室や異文化理解はより必要になってくると思う。

委員長 私達は母国以外の国で生活するとなると、非識字者になってしまう。一人ひとりが言語の異なる国で生活したらどうなるか、自分事として考える必要がある。また、在住している外国人に対しての支援活動は、共生とは言えない。対等な関係として、外国人住民の方々にも関わってもらって策定してこそ初めて共生と言える。